

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 委員の辞任	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	1
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	3
5 課題別委員会の開催とその議題	8
6 若手アカデミーの開催とその議題	8
7 サイエンスカフェの開催	8
8 総合科学技術・イノベーション会議報告	8
9 慶弔	9
10 インパクトレポート	9

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
2月5日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
2月5日(木)	学術フォーラム「科学研究における健全性の向上-研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインへの対応-」	大西会長、 井野瀬副会長
2月12日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
2月12日(木)	公開シンポジウム「日本における再生可能エネルギーの利用拡大に向けて」	大西会長
2月19日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長
2月20日(金)	学術フォーラム「神宮の森と東京オリンピック2020を考える」	花木副会長
2月22日(日) ～26日(木)	G7 学術会議（ハレ、ベルリン）	花木副会長
2月26日(木)	総合科学技術・イノベーション会議有識者会合	大西会長

(注) 部会、委員会等を除く。

2 委員の辞任

○経営学委員会 経営学大学院教育のあり方検討分科会

藤本 隆宏（平成27年1月17日付）

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第二部役員会（第1回）（2月27日）

①第23期の第二部活動方針の検討

②その他

(2) 第三部拡大役員会（第3回）（2月27日）

①第三部夏季部会について

②「第5期科学技術基本計画のあり方を考える委員会」の提言について

③大型計画マスタープランについて

④4月総会中の第三部会での議題について ⑤その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 科学研究における健全性の向上に関する検討委員会 健全性問題検討分科会 (第7回) (2月5日)

①学術フォーラムについて ②その他

(2) 東日本大震災復興支援委員会 エネルギー供給問題検討分科会拡大役員会 (第1回) (2月12日)

①今期の分科会の運営方針について ②分科会での話題提供者の検討
③その他

(3) 東日本大震災復興支援委員会 原子力発電所事故に伴う健康影響調査と国民の健康管理並びに医療のあり方検討分科会 (第1回) (2月16日)

①役員選出 ②分科会の進め方 ③その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学と社会委員会 課題別審議検討分科会 (第3回) (1月29日)

①オープンサイエンスの取組みに関する検討委員会設置について
②その他

(2) 国際委員会 アジア学術会議分科会 (第2回) (2月4日)

①ベトナム及びラオスの学術機関等との会合に係る会員の派遣について

(3) 国際委員会 (第5回) (2月6日)

①平成27年度代表派遣実施計画案の作成について
②ベトナム及びラオスの学術機関等との会合に係る会員の派遣について
③国際会議の後援申請について ④幹事会案件の報告 ⑤その他

(4) 国際委員会 国際会議主催等検討分科会 (第2回) (2月13日)

①ヒアリング審査・選定についての事務説明
②平成28年度共同主催保留会議再ヒアリング審査
③平成29年度共同主催国際会議ヒアリング審査
④前回議事概要の確認について ⑤その他

(5) 科学者委員会 (第3回) (2月25日)

①協力学術研究団体の指定について

(6) 国際委員会 (第6回) (2月26日)

①平成28年度共同主催国際会議候補の追加について

②平成29年度共同主催国際会議候補の決定及び保留について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 経済学委員会 ワーク・ライフ・バランス研究分科会 (第1回) (1月29日)

①役員の選出について ②今期の分科会の活動について ③その他

(2) 心理学・教育学委員会 公正原理を重視する公システムの再構築分科会 (第1回) (1月30日)

①役員の選出 ②今後の進め方について ③その他

(3) 地域研究委員会 地域情報分科会 (第1回) (1月30日)

①三役の決定 ②「地域の知」の経緯説明 (浅見前委員長)

③今期の活動計画 ④その他

(4) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会 (第2回) (1月30日)

①「ジェンダーから読み替える」日本史編の書評会について

②上記1) と絡む2015年9月末までの活動展開について

③上記2) と絡む高校歴史教育における改革の進捗状況について

④その他

(5) 第一部 国際協力分科会 (第2回) (1月31日)

①特任連携会員の申請について (報告) ②連携会員の追加について (報告)

③代表派遣について (報告) ④AASSREC第21回大会の準備について

⑤IFSSO第22回大会 (成城大学) および分科会の共済シンポジウムについて

⑥その他

(6) 社会学委員会 社会福祉学分野の参照基準検討分科会 (第1回) (2月2日)

①役員の選出 ②社会福祉学分野の参照基準の検討 ③その他

(7) 社会学委員会 社会福祉学分科会 (第1回) (2月2日)

- ①役員の選出 ②今後の審議について ③その他

(8) 法学委員会 「グローバル化と法」 分科会 (第1回) (2月8日)

- ①委員長及び幹事の選出 ②今期の審議方針 ③その他

(9) 史学委員会 国際歴史学会議等分科会 (第1回) (2月9日)

- ①役員の選出 ②C I S H 2 0 1 5 への代表派遣について
③今期の方針 ④その他

(10) 史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会 (第1回) (2月9日)

- ①役員の選出
②今期の活動方針
③その他

(11) 法学委員会 持続可能社会とケアワークの再定位分科会 (第1回) (2月9日)

- ①分科会メンバー紹介 ②委員長、副委員長、幹事の選出
③第23期分科会の課題
④第23期分科会の活動スケジュール及び2014年10月～2015年9月の活動
⑤次回分科会 ⑥その他

(12) 法学委員会 「市民性」涵養のための法学教育システム構築分科会 (第1回) (2月9日)

- ①分科会メンバー紹介 ②委員長、副委員長、幹事の選出
③第23期分科会の課題
④第23期分科会の活動スケジュール及び2014年10月～2015年9月の活動
⑤次回分科会
⑥その他

(13) 心理学・教育学委員会 社会のための心理学分科会 (第1回) (2月10日)

- ①役員の選出 ②今期の活動方針 ③その他

(14) 法学委員会 社会と教育におけるLGBTIの権利保障分科会 (第1回) (2月12日)

- ①分科会メンバー紹介 ②委員長、副委員長、幹事の選出
- ③第23期分科会の課題
- ④第23期分科会の活動スケジュール及び2014年10月～2015年9月の活動
- ⑤次回分科会 ⑥その他

(15) 哲学委員会 哲学分野の参照基準検討分科会 (第3回) (2月19日)

- ①参照基準原案の検討 ②その他

(16) 社会学委員会 社会統計調査アーカイブ分科会 (第1回) (2月19日)

- ①役員の選出 ②前期の活動報告について
- ③今期の活動方針について ④その他

第二部担当

(1) 健康・生活科学委員会 生活習慣病対策分科会 (第1回) (1月30日)

- ①自己紹介 ②委員長の選出
- ③今後の活動方針 ④中釜斉先生の特任連携会員の推薦について ⑤その他

(2) 臨床医学委員会 臨床研究分科会 (第1回) (1月30日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事2名)の選出
- ②提言、ガイドラインの紹介 ③その他

(3) 農学委員会 農業経済学分科会 (第1回) (1月31日)

- ①役員の選出について ②今後の活動計画について ③その他

(4) 農学委員会・食料科学委員会合同 C I G R分科会 (第1回) (2月2日)

- ①分科会役員の選出 ②C I G R大会関連報告 ③国際会議派遣について
- ④23期の分科会の運営について ⑤その他

(5) 農学委員会・食料科学委員会合同 P S A分科会 (第1回) (2月10日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②畑井新喜メダルの取り扱いについて
- ③特任連携会員の推薦について ④その他

(6) 薬学委員会 チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会 (第1回) (2月13日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出 ②今期のテーマと目標について

③その他

(7) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会 (第2回) (2月13日)

- ①沖縄でのシンポジウム「沖縄に国立自然史博物館を！～ちゅら島の豊かな自然を未来につなぐ～」(12月6日開催)の報告
- ②国立自然史博物館設立に向けての今後の活動方針
- ③その他

(8) 臨床医学委員会 手術データの全国登録と解析に関わる分科会 (第1回) (2月18日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出
- ②National clinical database(NCD)の現状
- ③専門医制度とNCDの関連について
- ④本委員会の目標 ⑤その他

(9) 食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 トキシコロジー分科会 (第1回) (2月23日)

- ①役員(委員長、副委員長、幹事)の選出
- ②第22期からの引き継ぎ事項の確認 ③第23期の活動計画 ④その他

(10) 健康・生活科学委員会 看護学分科会 (第1回) (2月24日)

- ①委員長1名、副委員長1名、幹事2名の選出
- ②23期看護学分科会が取り組む課題
 - ・ケアサイエンスに関する継続検討を含む
- ③看護学大学教育の分野別質保障のための参照基準の策定について
- ④今後のスケジュール ⑤その他

(11) 健康・生活科学委員会 家政学分科会 (第2回) (2月24日)

- ①家政学および家庭科教員養成に対する課題の検討
- ②平成27年度生活科学系コンソーシアム活動について ③その他

第三部担当

(1) 電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会 (第1回) (1月29日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出
- ②第23期総会、第三部会、電気電子工学委員会等の報告

③第23期通信、電子システム分科会活動計画について ④その他

(2) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会 (第1回) (1月30日)

- ①第23期分科会設置の経緯と趣旨説明 ②分科会の活動等について
- ③役員の選出 ④第22期の活動のまとめと第23期の活動方針について
- ⑤小委員会の設置提案について ⑥その他

(3) 電気電子工学委員会 デバイス・電子機器工学分科会 (第1回) (2月3日)

- ①役員の決定 ②第22期の活動報告 ③第23期の活動方針の自由討論
- ④その他

(4) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 (第1回) (2月13日)

- ①23期役員決定 ②今期の方針・課題 ③その他

(5) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会 (第1回) (2月16日)

- ①人材育成分科会委員長の選出 ②分科会の課題について
- ③小委員会の設置について ④その他

(6) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会 (第1回) (2月16日)

- ①委員長の選出、副委員長、幹事の決定 ②小委員会の設置について審議
- ③特任連携会員候補について審議
- ④リスク学会主催「安全目標」シンポジウムの共催について審議
(2015年6月25日(木) 午後、東大山上会館)
- ⑤安全工学シンポジウム2015主催について審議
(2015年7月2日(木)、3日(金)、日本学術会議)
- ⑥今期の活動内容についての方向性審議、決定
- ⑦22期公表「安全目標」報告書内容について意見交換 ⑧その他

(7) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会 (第1回) (2月17日)

- ①フルデプス探査船に係る重点およびロードマップでの最近の状況報告
- ②探査技術に係る重点およびロードマップでの最近の状況報告
- ③マスタープラン2014、ロードマップ2014について
- ④シンポジウム開催結果の紹介

- ⑤23 期での活動、アウトプットについての意見交換
- ⑥提言改訂に向けての調整 ⑦その他（次回日程等）

（8）基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題
検討分科会（第1回）（2月20日）

- ①役員選出 ②今期の進め方 ③その他

（9）環境学委員会 都市と自然と環境分科会（第2回）（2月20日）

- ①シンポジウムについての協議 ②緊急提言について ③今後の活動

（10）数理学委員会 統計学分野の参照基準検討分科会（第2回）（2月24日）

- ①統計学分野の参照基準の厚生について ②執筆分担について ③その他

5 課題別委員会の開催とその議題

（1）高レベル放射性廃棄物の処分に関するフォローアップ検討委員会（第5回）（2月17日）

- ①提言案についての審議 ②その他

6 若手アカデミーの開催とその議題

（1）若手アカデミー会議（第1回）（2月24日）

- ①若手アカデミー創設の趣旨について ②役員選出 ③23期活動方針の検討
- ④その他

7 サイエンスカフェの開催

なし

8 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

なし

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

2月 5日 出席
2月12日 欠席
2月26日 出席

9 慶弔

・ご逝去

田中 郁三（たなか いくぞう）89歳 2月16日
元会員（第13－14期） 元東京工業大学学長、元学位授与機構機構長

10 インパクト・レポート

提言「第22期学術の大型研究計画に関するマスタープラン (マスタープラン2014)」インパクト・レポート

1 提言内容

- (1) 国家的な大型研究プロジェクトの推進には、長期間にわたって多額の経費を措置する必要があるため、社会や国民の幅広い理解を得ながら、長期的な展望をもって戦略的・計画的に推進していくことが強く求められる。本分科会は、日本学術会議「日本の展望—学術からの提言2010—」の実現に向けて、大型研究計画の観点から学術の方向性を明らかにするために、新たに学術大型研究計画207件（区分Ⅰ及び区分Ⅱの合計）と重点大型研究計画27件を取りまとめ、その内容をマスタープラン2014として提案する。
- (2) マスタープラン2014は、科学者コミュニティの総意として、日本学術会議が積極的に関与すべきとする方向性を具現化したものである。今後、科学者コミュニティは、大型研究計画の実現を通じて研究の発展を図り、我が国の科学技術の振興に貢献することが求められる。なお、学術全体の発展には、大型研究に馴染まない学術領域の貢献も極めて重要であることはいうまでもない。
- (3) マスタープラン2014で策定された大型研究計画は、今後、科学技術立国を旨とする我が国の将来に資するために、国として計画に措置されるべきである。このため、大型研究計画が、国や自治体等の学術に関わる政策に速やかに反映されることが求められる。

2 提言の年月日

平成 26 年 2 月 28 日

3 社会的インパクト

(1) 政策

文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会は、2005 年 8 月 6 日に学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定ー ロードマップ 2014 ーを公表した。この中で、同作業部会はマスタープラン 2014 を積極的に活用したことを明言した。実際、新たなロードマップは、マスタープラン 2014 の重点大型研究計画の中から 10 課題を選定して作成している。

今回、新ロードマップが選定した 10 課題中殆どの課題は、重点大型研究計画選定過程において上位 10 位以内の高い評価点を得た計画であった。これにより、日本学術会議としては、文部科学省の新ロードマップが概ね適切な計画であると評価することができる。

内閣府の総合科学技術・イノベーション会議もマスタープランについて強い関心を持ち、日本学術会議として説明を行った。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

マスタープランは、科学者コミュニティからの主体的な寄与が十分反映されることが必要である。このため、マスタープラン 2014 の策定においては、「公募」方式を採用した。こうした公募の過程を通じて、科学者コミュニティの内部及び相互の意思疎通が図られたことは、いくつかの学会の活動から明らかである。マスタープラン 2014 はその策定過程の透明性によりマスタープラン 2011 と一線を画すものと多くの科学者が受け止めており、その結果、日本学術会議の活動が科学者コミュニティから一定の認知を受けたと考えている。

4 メディア

- ・ 読賣新聞（平成 26 年 3 月 12 日夕刊）3 面
- ・ 読賣新聞（平成 26 年 4 月 3 日夕刊）10 面

5 考察と自己点検

マスタープラン 2014 の策定に先立ち、本分科会が決定した「策定方針」では、学術分野のビジョン・体系に立脚して「学術大型研究計画」と「重点大型研究計画」を策定することを社会に宣言した。さらに、学術大型研究計画を公募方式にすることにより、大型研究計画の選定における公開性を実現するとともに、策定プロセスの透明性の確保と利益相反に留意した公平・公正な選定プロセスを構

策した。これらの手続きはその後の審査において有効に機能した。

マスタープラン 2014 の策定に際しては、我が国の学会、学術研究機関を含む科学者コミュニティにおいて学術の観点から大型研究計画の議論が進められた。また、人文・社会科学、生命科学、理学・工学の各分野において多くの長期的な大型研究計画が提案されたことや、学術会議 30 分野の多くの関係者が大型研究計画の選定の過程に関与したことは重要なことであった。また、事前に公開した策定プロセスにより大型研究計画の選定を実施したことは、科学者コミュニティの総意の形成という観点から画期的なことである。

大規模な研究開発投資は必ずしも科学的な価値のみで決定されるものではないが、日本学術会議が、学術の観点から方向性を明らかにし、自ら評価・検証を行ったことは意義深い。

第 23 期日本学術会議が新たなマスタープランを策定し、日本の学術の発展に向けてさらに主体的に取り組むことを期待する。

インパクト・レポート作成責任者

第 22 期科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会
委員長 荒川 泰彦

提言「緊急被ばく医療に対応できるアイソトープ内用療法拠点の整備」 インパクト・レポート

1. 提言内容

- (1) RI 総合医療センター（仮称）の設置
- (2) 緊急被ばく医療にも貢献できる RI 内用療法医療スタッフの育成
- (3) RI 内容療法の普及と緊急被ばく医療の実施に向けた規制緩和と運営環境の改善
- (4) 広域緊急被ばく医療体制の再構築と国際緊急被ばくネットワークへの参画

2. 提言の年月日

平成 26 年 3 月 31 日

3. 社会的インパクト

(1) 政策

日本核医学会では RI 内用療法拠点の整備を進めるために、厚労省医政

局長を訪問し、本提言の実現に向けた取り組みを相談した。

(2) 学協会・研究教育機関・市民社会等の反応

福島県立医科大学附属病院では、緊急被ばく医療に対応できる 1 床を含む 10 床の新 RI 治療病室の建築を進めている。また他の国公立大学附属病院でも新しく RI 治療病室の建築計画があり、相談を受けた。

4. メディア

特になし。

5. 考察と自己点検

- (1) 本提言の実現には、病院あたり 10 億円以上の費用と長い時間を必要とするが、関係者の理解を得て、徐々に進展すると期待している。
- (2) 欧米では認可されているのに、わが国では未承認のため、治療を受けられず、外国に出かけて RI 内用療法を受ける状態は解消していない。放射性物質の医学利用に関しては、グローバルスタンダードに準じた法規制、新薬審査体制の実現が望まれる。

インパクト・レポート作成責任者

臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会
委員長 遠藤 啓吾